

# 言語活動の充実に向けて

～教科の特性を生かした言語活動と指導計画～

Q. 「言語活動」とは何でしょうか (本研究における定義)

A. 国語科で身に付けた技能を基に、各教科等の目標を実現するための「思考・判断・表現」を伴う「話す・聞く」「書く」「読む」活動全般です。

Q. 「言語活動の充実」は何のために必要なのでしょうか

A. 思考力・判断力・表現力等を育むためです。

次代を担う子供たちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することなど、変化に対応する能力や資質が求められています。そのために、思考力・判断力・表現力等を育むことが必要です。

本研究では、「言語活動の充実」を図ることで、自分の考えをもち、他者と伝え合い、再び自分の考えを深めるという「自分の言葉で表現できる」児童・生徒の育成を目指しています。

Q. 言語活動を充実させるためにはどうしたらよいですか

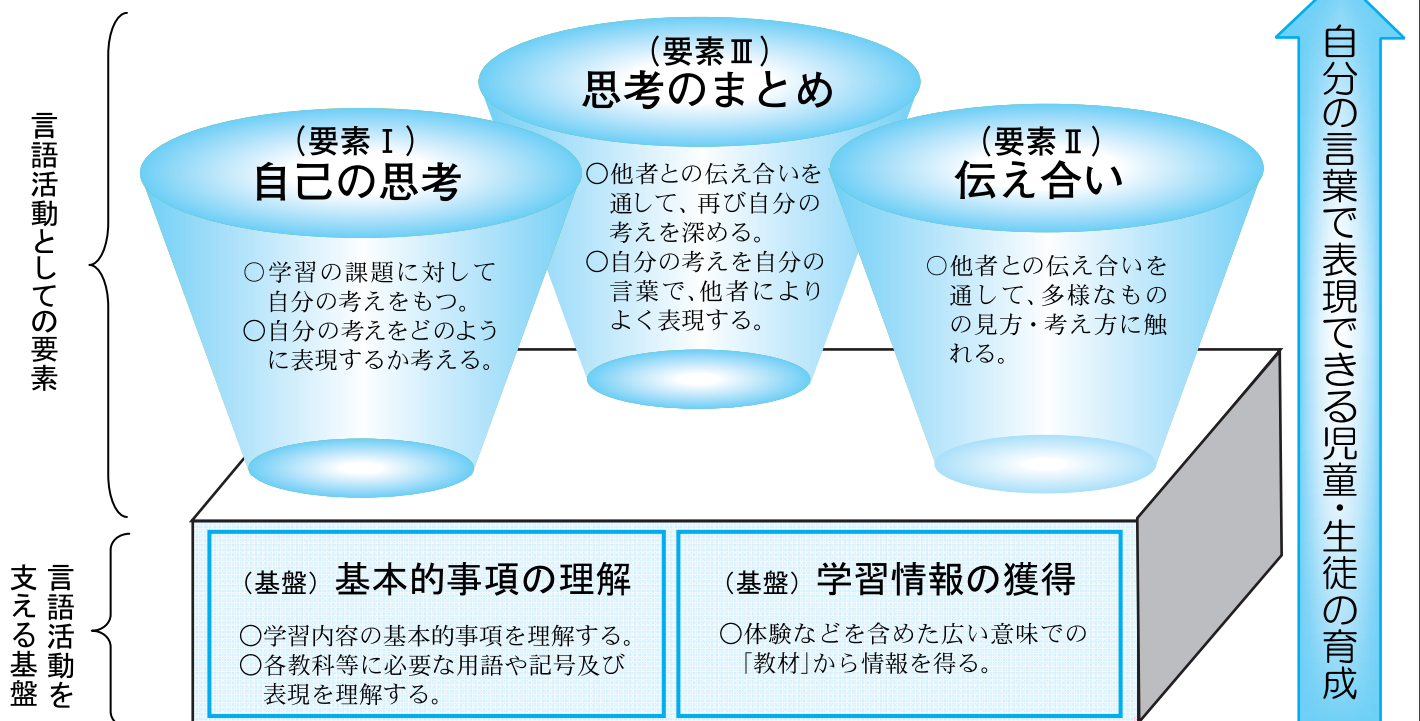
A. 指導計画に「言語活動としての要素(要素)」と「言語活動を支える基盤(基盤)」を位置付けます。

「言語活動としての要素」とは、「自己の思考」、「伝え合い」、「思考のまとめ」です。

「言語活動を支える基盤」とは、「基本的事項の理解」及び「学習情報の獲得」です。これらを指導計画に適切に位置付けることが大切です。

※ 「要素」と「基盤」の詳細は、東京都教職員研修センター紀要第10号(平成22年度)参照

## 教科等及び単元(題材)の目標、授業のねらいの実現



教科の特性を踏まえた、教科及び単元(題材)の目標、1単位時間のねらいを実現するために言語活動を意図的・計画的に位置付けた指導の工夫が必要です。

### 国語

#### 言語活動 指導のポイント

- ◇ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では、社会生活に必要なとされる発表、案内、報告、編集、鑑賞、批評などの言語活動を工夫する。
- ◇ 言語活動を通して指導事項を指導するため、学習過程を明確にし、単元を貫く言語活動を位置付ける。
- ◇ 「読むこと」では、読む目的を明確にして本や文章を選んだり、目的に応じて内容を的確に捉えたり、自分の考えをまとめて交流したりする学習活動を工夫する。

#### 1 単位時間の実践事例

客観的、分析的に読み進める  
「文章の解釈」

#### ■言語活動の位置付け方

##### 要素Ⅰ 自己の思考

文章の叙述を基に、場面や登場人物の設定について自分の考えをもつ。

##### 要素Ⅱ 伝え合い

自分の考えをグループで伝え合う。

##### 要素Ⅲ 思考のまとめ

ノートに修正点や新たな考えを書き加える。

#### ■主な言語活動

グループ内で相互に考えを聞き取り、ワークシートやノート等に自分の考えを記述しながら学習を進める。



### 社会

#### 言語活動 指導のポイント

- ◇ 地理的分野では、地図を活用した説明、解釈を加えた論述、意見交換などの学習活動を工夫する。
- ◇ 歴史的分野では、時代を大観した表現活動、各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子を捉える学習活動など歴史的事象を考察・判断し、自分の言葉で表現するような学習活動を工夫する。
- ◇ 公民的分野では、社会的事象についての説明、論述、議論などを通して考えを深めるなどの学習活動を工夫する。

#### 1 単位時間の実践事例

多面的・多角的な見方・考え方を育てる  
地理的分野「世界の様々な地域」

#### ■言語活動の位置付け方

##### 要素Ⅱ 伝え合い

開発と環境保全を両立させる手だてについてグループで討論する。

##### 要素Ⅲ 思考のまとめ

互いの発表を踏まえながら、再度、開発と環境保全を両立させる手だてについて考える。

※要素Ⅰは、前時までに重点的に扱う。

#### ■主な言語活動

地図やグラフ、写真などの資料から自分の考えをもち、異なる立場からテーマに沿って討論する学習を行う。



## 言語活動 指導のポイント

教科における言語活動の指導のポイントとして、その教科の特性から、言語活動を取り入れる場面や、取り入れる際に留意することなどを示しています。

### 1 単位時間の実践事例

1単位時間における教科の特性を踏まえた言語活動の例を示しています。ねらいに応じて言語活動を位置付けることが大切です。

# 数学

## 言語活動 指導のポイント

- ◇ 言葉や数、式、図、表、グラフなどで、数学的に表現したり、処理する技能を高めたりする学習活動を工夫する。
- ◇ 思考の過程や判断の根拠などを数学的に表現して説明したり、数学的に表現されたものについて話し合っ て解釈したりする学習活動を工夫する。
- ◇ 数や図形の性質などを伝え合い、互いの考えをよりよいものに改めたり、一人では気付くことのできなかったことを見いだしたりする機会を設ける。

### 1 単位時間の実践事例

多様な方法による問題解決を促す  
「平行と多角形の角」

#### ■言語活動の位置付け方

##### 要素Ⅰ 自己の思考

既習事項を活用し、補助線を引くなどして課題解決に取り組む。

##### 要素Ⅱ 伝え合い

- ・ 解決方法について、全体で伝え合う。
- ・ 出された方法を用いて解決する。
- ・ それぞれの方法について、グループで話し合う。

※要素Ⅲは、次時以降に重点的に扱う。

#### ■主な言語活動

数学的な表現を用いて、自分の考えをもち、伝え合う学習を行う。



# 理科

## 言語活動 指導のポイント

- ◇ 観察、実験を計画する場面では、事実や根拠に基づき結果を予想したり、検証方法を議論したりしながら考えを深め合う学習活動を工夫する。
- ◇ 結果を分析し解釈する場面では、図、表、グラフなどの多様な形式で表す、モデルと比較するなど考察する時間を十分に確保し、考えをまとめ表現する学習活動を工夫する。
- ◇ 科学的な概念を使用して考え、説明する場面では、レポートの作成、発表、討論など知識及び技能を活用する学習活動を工夫する。

### 1 単位時間の実践事例

思考の過程を明確にする  
「化学変化と原子・分子」

#### ■言語活動の位置付け方

##### 要素Ⅰ 自己の思考

鉄を燃やす実験の結果について予想する。

##### 要素Ⅱ 伝え合い

鉄が燃えたらどうなるか、各自の予想をグループの中で伝え合う。

##### 要素Ⅲ 思考のまとめ

本時の実験結果から導き出せることをまとめる。

#### ■主な言語活動

鉄を燃やすとどのような変化が起こるのか、各自で予想をし、グループで共有する。



# 教科の特性を生かした言語活動

## 中学校

教科の特性を踏まえた、教科及び単元(題材)の目標、1単位時間のねらいを実現するために言語活動を意図的・計画的に位置付けた指導の工夫が必要です。

### 言語活動 指導のポイント

教科における言語活動の指導のポイントとして、その教科の特性から、言語活動を取り入れる場面や、取り入れる際に留意することなどを示しています。

### 1 単位時間の実践事例

1単位時間における教科の特性を踏まえた言語活動の例を示しています。ねらいに応じて言語活動を位置付けることが大切です。

## 音楽

### 言語活動 指導のポイント

- ◇ 音楽に対するイメージ、思い、意図などを相互に伝え合う学習活動を工夫する。
- ◇ 歌唱表現では、言葉と音楽との関係を重視する観点から、歌詞の内容や言葉の特徴を生かして歌ったり、日本語のもつ美しさを味わったりする学習活動を工夫する。
- ◇ 鑑賞では、音楽的な特徴などを理由として挙げながら音楽のよさや美しさなどについて述べる学習活動を位置付けて、主体的、創造的に味わって聴く学習活動を工夫する。

### 1 単位時間の実践事例

聴き手に伝わる表現の工夫を促す  
「合唱の喜び」

#### ■言語活動の位置付け方

##### 要素Ⅰ 自己の思考

自分たちの歌唱表現についてよい点と改善点を書く。

##### 要素Ⅱ 伝え合い

表現の工夫について話し合い、必要な技能を全員で共有する。

##### 工夫を生かし、歌唱で表現する

※要素Ⅲは、次時以降に重点的に扱う。

#### ■主な言語活動

自分たちの歌唱表現について、よい点と改善点を考え、学級で意見交換をする。



## 美術

### 言語活動 指導のポイント

- ◇ 表現では、アイデアスケッチで構想を練ったり、他者と意見を交換することにより、理解を深めたりするなどの学習活動を工夫する。
- ◇ 鑑賞では、作品に対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、対象の見方や感じ方を広げるなどの学習活動を工夫する。

### 1 単位時間の実践事例

構想する力を高める  
「和・モダン・ランプシェード」

#### ■言語活動の位置付け方

##### 要素Ⅱ 伝え合い

デザイン(案)の意図をグループの友達に説明し、互いに質問したり、助言したりする。

##### 要素Ⅲ 思考のまとめ

友達からの助言(付箋)を基に、アイデアスケッチを完成させる。

※要素Ⅰは、前時までに重点的に扱う。

#### ■主な言語活動

友達の助言などを基に、構想に修正を加え、アイデアスケッチを練り直す。



## 保健体育

### 言語活動 指導のポイント

- ◇ 体育分野では、相手や仲間のよい演技に賞賛を送る、互いのよい演技を認め合う、教え合うなどのコミュニケーションを図る学習活動を工夫する。
- ◇ 保健分野では、実習や実験の観察や体験を基に話し合うこと、健康に関わる概念や原則を基に、自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりしたことについて、筋道を立てて説明するなどの学習活動を工夫する。

### 1 単位時間の実践事例

学習課題に応じた運動の工夫を促す  
「球技(ベースボール型ゲーム・ソフトボール)」

#### ■言語活動の位置付け方

##### 要素Ⅱ 伝え合い

運動の時間を確保した上で、チームの課題に応じた練習方法や、作戦を考え、話し合う。

##### チーム練習を行う

※要素Ⅰ、要素Ⅲは、他の時間で重点的に扱う。

#### ■主な言語活動

運動の時間を確保した上で、カードを活用して、互いのプレイについて助言し合う。



## 技術・家庭

### 言語活動 指導のポイント

- ◇ 技術分野では、ものづくりなどの設計や計画の場面において、製作図や栽培・飼育計画表、フローチャート等を用いて考えを整理し、よりよいアイデアを生み出すなどの学習活動を工夫する。
- ◇ 家庭分野では、調理、製作、幼児と触れ合う活動などの実習を行った後に、体験から感じ取ったことや気付いたことをまとめたり、その結果を整理し考察したり、共有したりするなどの学習活動を工夫する。

### 1 単位時間の実践事例

製作の見通しをもつ工夫をさせる  
「製作の手順を考えて製作しよう」

#### ■言語活動の位置付け方

##### 要素Ⅰ 自己の思考

材料の切断について、工具のよりよい使用方法を考える。

##### 要素Ⅱ 伝え合い

材料の切断面について相互評価し、伝え合う。

##### 要素Ⅲ 思考のまとめ

友達からの評価を参考に、作業について改善点をまとめてワークシートに記入する。

#### ■主な言語活動

材料の切断面を相互に観察し合い、評価を行い、ワークシートを用いて伝え合う。



## 外国語

### 言語活動 指導のポイント

- ◇ 「聞くこと」では、英語を聞いて話し手の意向などを理解する、「話すこと」では、英語を用いて自分の考えなどを話す、「読むこと」では、英語を読んで書き手の意向などを理解する、「書くこと」では、英語を用いて自分の考えなどを書く学習活動を工夫する。
- ◇ 特有の表現がよく使われる場面やコミュニケーションを円滑にするなど具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて学習活動ができるよう工夫する。

### 1 単位時間の実践事例

伝え合いを通して表現能力を高める  
「比較級の用法」

#### ■言語活動の位置付け方

##### 要素Ⅰ 自己の思考

比較級を用いて問題(クイズ)を作成し、ワークシートに書く。

##### 要素Ⅱ 伝え合い

作成した問題(クイズ)を読み合い助言を記入する。

##### 要素Ⅲ 思考のまとめ

友達からの助言を基に、問題(クイズ)を修正したり、加筆したりする。

#### ■主な言語活動

作成した問題を読み合い、助言し合う。



# 言語活動を取り入れた学習指導案を作成してみましょう

「言語活動を効果的に位置付けるための活用シート(言語活動シート)」とは、教科の特性に応じた言語活動を、単元の指導計画及び1単位時間に効果的に位置付けるためのものです。図の言語活動シートを用いて下記の手順を参考に、学習指導案を作成してみましょう。

**理 科** 言語活動を効果的に位置付けるための活用シート

	教科の目標	言語活動の指導のポイント	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>教科の目標</b> 小学校 中学校                 </div>	自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事象・現象についての実感を持った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。 自然の事象・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事象・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。	◆ 問題解決の過程において科学的な言葉や概念を使用して考え表現する学習活動を工夫する。 ◆ 予想や仮説を立てる場面では、問題に対する考えを記述したり、児童相互が話し合うことで、条件に着目したり視点を明確にしたりして自らの考えを顕在化させる学習活動を工夫する。 ◆ 結果を整理し、考察し、結論をまとめる場面では、観察、実験の結果を表やグラフに整理し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化し、表現することを一層重視する。 ◇ 観察、実験を計画する場面では、事実や根拠に基づき結果を予想したり、検証方法を議論したりしながら考えを深め合うよう学習活動を工夫する。 ◇ 結果を分析し解釈する場面では、図、表、グラフなどの多様な形式で表す、モデルと比較するなど、考察する時間に十分に確保し考えをまとめ表現する学習活動を工夫する。 ◇ 科学的な概念を使用して考え、説明する場面では、レポートの作成、発表、討論など知識及び技能を活用する学習活動を工夫する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>指導のポイント</b> 小学校 中学校                 </div>
	<b>言語活動としての要素</b>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>「要素」の具体的な内容</b> </div>	<b>要素Ⅰ 自己の思考</b> ○ 観察、実験に対する予想を立て、ノートやワークシートに書く。 ○ 実験の記録から考察したことを書く。	○ 学習の課題に対して自分の考えをもつ。 ○ 自分の考えをどのように表現するか考える。 ◇ 観察、実験を計画する場面では、付箋を活用するなどして、既習事項や生活経験に基づく事実や根拠を明らかにして予想を書かせる。 ◇ 結果を分析し解釈する場面では、表、グラフや図を活用して結果を整理し、図、絵、文章などの多様な表現方法を示して、結果から考えられることを書かせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>「基盤」の具体的な内容</b> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>「要素」における指導の工夫</b> </div>	<b>要素Ⅱ 伝え合い</b> ○ 予想と、なぜそう考えたのかをグループや全体で話し合う。 ○ 観察、実験の結果について、記録したことを伝え合い、共有する。 ○ 観察、実験の結果から考えたこと、考えた理由や根拠について伝え合う。	○ 他者との伝え合いを通して、多様なものの見方・考え方に触れる。 ○ 付箋にメモした予想、結果や考察をグループで伝え合わせる。 ○ グループごとにまとめた、観察、実験の結果をホワイトボード等を用いて提示しながら、発表させる。	
	<b>言語活動を支える基盤</b>		
	<b>基本的事項の理解</b> ○ 学習内容の基本的事項を理解する。 ○ 各教科等に必要用語や記号及び表現を理解する。 具体的な内容 ○ 科学的な知識や用語を理解する。 ○ 実験器具の名称や使い方を理解する。 ○ 観察、実験の方法や手順を理解する。		
	<b>学習情報の獲得</b> ○ 体験などを含めた広い意味での「教材」から情報を得る。 具体的な内容 ○ 教科書、ノートやワークシートから既習の科学的な知識や概念を確認する。 ○ 教科書、ノートやワークシートから既習の実験器具の名称や使い方を確認する。 ○ 観察、実験活動を行い、必要な情報を得る。 ○ 博物館や科学センターを活用した自然体験や科学的な体験から、必要な情報を得る。 ○ 教科書、資料集等の資料やインターネットから必要な情報を得る。		

以下の手順に沿って書き込んでみましょう

## 1 指導計画

単元(題材)の目標・評価規準を設定

国立教育政策研究所  
【評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料】を参考にします

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>

観点【思考・判断・表現】は、言語活動を通して評価しましょう。

単元(題材)の学習内容を決定、配置

言語活動シートを、東京都教職員研修センターホームページからダウンロードしましょう。

<http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/>

重点を置く要素を単元(題材)に位置付ける

言語活動シートで指導のポイントを確認し、単元(題材)の目標を実現するために、ふさわしい言語活動を設定しましょう。「要素」を選び、児童・生徒の実態に応じた活動形態を考えます。

## <学習指導案>

科 第 学年 単元(題材) 「 \_\_\_\_\_ 」

1 単元(題材)の目標 身に付けさせたい力を考え、単元(題材)を通して目標を設定しましょう。

2 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
----------	----------	----	-------

3 単元(題材)の指導計画(全時間)

言語活動の評価の観点は、思考・判断・表現が中心となります。

時	学習内容	言語活動の位置付け	評価の観点
(例)	理科 鉄を燃焼させるとどうなるか。	I 自己の思考 II 伝え合い III 思考のまとめ	関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解
1		I 自己の思考 II 伝え合い III 思考のまとめ	関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解
2		I 自己の思考 II 伝え合い III 思考のまとめ	関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解
		I 自己の思考 II 伝え合い III 思考のまとめ	関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解

単元(題材)の目標を実現するための言語活動(要素)を位置付けましょう。

4 本時の学習

(1) ねらい

--

【本時における言語活動の例】

〔要素Ⅰ〕自己の思考 ⇒ ノートに書く・ワークシートに書く・メモする  
その他 ( )

〔要素Ⅱ〕伝え合い ⇒ グループ又は全体で伝え合う・書いたものを  
読み合う・その他 ( )

〔要素Ⅲ〕思考のまとめ ⇒ ノートに書く・レポートを書く  
その他 ( )

(2) 本時の展開 (※は、要素や基盤を位置付ける際のポイント)

	学習活動・内容	◇指導上の留意点 評価規準【観点】(評価方法)
導 入	本時のねらい	
展 開	展開1 〔要素Ⅰ〕自己の思考 ※学習課題に対する自分の考えを もたせ、ノートやワークシート等に 書かせます。	〔基盤〕学習情報の獲得 ※前時までの既習事項を教科書や ノート等で見直し、自分の考えを もたせるように促します。
	展開2 〔要素Ⅱ〕伝え合い ※話し合いや、ワークシート等の交換を 通して自分の考えを伝えるときも に、他者の考えに触れさせます。	〔基盤〕学習情報の獲得 ※既習事項の教科の用語等を使用し、 他者に伝わるよう工夫 させます。
	展開3 〔要素Ⅲ〕思考のまとめ ※伝え合い等を通して、再び自分 の考えを深め、ノートやワーク シート等にかかせます。	〔基盤〕学習情報の獲得 ※伝え合いで得た他者の考えと 自分の考えを比較するなど、 助言します。
ま と め		

## 2 本時の言語活動

本時のねらいを設定し、ねらいにつな  
がる言語活動の選定

本時のねらいを実現するために、どのような  
言語活動が効果的か考えましょう。

言語活動シート の「言語活動の指導のポイ  
ント」と、「言語活動としての要素(具体的な内  
容)」を参考に、本時の言語活動の内容を記  
入しましょう。

- まず「要素」を位置付け、次にそれ  
ぞれの要素に必要な「基盤」は何  
かを把握し、記入します。
  - 1 単位時間に全ての要素を位置付け  
る必要はありません。単元(題材)の  
目標に即して要素を位置付けましょう。
- ※を参考に作成しましょう。

### 言語活動としての要素の設定

本時の言語活動を位置付けましょう。

言語活動シート の「言語活動としての要素  
(具体的な内容)」を参考に、記入しましょう。

### 各要素に必要な基盤の把握

言語活動シート の「言語活動としての基盤  
(具体的な内容)」を参考に、記入しましょう。

### 指導の工夫の記入

言語活動シート の「言語活動としての要素  
(指導の工夫)」を参考に、生徒の実態に即  
して必要な指導の工夫を記入しましょう。

## 3 授業の前の確認

本時のねらいを実現するための  
言語活動になっていますか

# 言語活動を充実させるために、授業研究や校内研修を工夫してみましょう

## 1 授業観察の工夫

次の視点を参考にして授業を観察します。授業後に観察した内容を共有し、協議を深めることで、授業改善につなげることができます。

### 【考えさせる発問】

- ☆ 生徒の思考を促す発問をしている。
- ☆ 視点を明確に示して発問をしている。

### 【伝え合い】

- ☆ 話し合う視点を明確に示している。
- ☆ 生徒が自主的に参加できる工夫をしている。

### 【考えのまとめ方】

- ☆ 思考の流れを分かりやすく示すために、ホワイトボードやカードを用いて工夫している。

### 【既習事項の活用】

- ☆ 自分の考えを振り返ることができるノートやワークシートを作っている。

### 【指導と評価の一体化】

- ☆ 生徒のノート、作品、学習の様子等を確認し、学習を促す評価を行っている。

### 【言語環境の整備】

- ☆ 正しい言語で話している。
- ☆ 正確で丁寧な文字を書いている。
- ☆ 配布物等は用語を適切に使用している。

## 2 校内研修の工夫

校内研修において、次のような協議の工夫をすることで、共通の視点で課題を捉えて情報交換することができます。

授業における児童・生徒の発表や書く活動の実態等、テーマを決めて、模造紙に書き込みます。これによって、他教科での生徒の様子や状況を知ることができ、課題や手だてについて、話し合いを進めることができます。実際の校内研修会では次のようなテーマで意見が出されました。

### 「生徒の実態と、育てたい力」

- ・自分の考えを伝え合う力を育てたい。
- ・自分の考えを書く力を高めたい。



### 「教科での工夫」

- ・理由を問う発問をしている。
- ・自分の課題を書かせて、自己評価に活用している。

### 「学校全体で取り組みたいことは」

- ・挨拶の取組や掲示物の工夫など、言語環境を整える。
- ・主体的に取り組めるような読書活動を推進する。

### 「考えをもたせるには」

- ・考えたことを書かせることが大切である。
- ・書かせたことを伝え合うと考えが深まる。

## 「言語能力向上推進事業」の取組

東京都教育委員会では、活字に親しむ学校づくりを通して、児童・生徒の言語能力を向上させるため、推進校を指定し研究を行っています。推進校における言語活動の充実に向けた取組を紹介します。

### しょうへい 落語家を招聘した授業



落語家から、しぐさや間合い、人を引き付ける話術について学びました。

(写真右は林家木久蔵氏)

### 合同書評会



市内の中学校生徒による合同書評会を活用して、同じ本を読んで感想を述べ合う学習活動を行いました。

### 弁論大会



年間2回、「弁論大会」の開催を通し、児童の言語能力の向上を図りました。

【教育庁指導部指導企画課「言語能力向上ニュース第6号、第7号」より】

問合せ先 東京都教職員研修センター研修部教育開発課 東京都文京区本郷 1-3-3

電話 03-5802-0319 ファクシミリ 03-5802-2090 <http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/>